

活用事例②-1

東京都立青山特別支援学校
宮地いづみ

■活動した学部・学年：小学部5年

■主障害名：知的障害

■アセスメント名・結果：

太田StageIII - 2

■指導教科：国語・算数

■学習形態：個別学習

■本の名前：

『ケーキ・ケーキ・ケーキ』

『おおきなかぶ』

『うらしまたろう』

『ノントンシリーズ』

■対象となる子どもたちの実態

- ・言葉の指示を理解して行動できる。
- ・言葉の語彙が増えてきている。
- ・食べ物が好きで、ふだんから料理の写真がある本を探して見る。
- ・友達との関わりも増え、一緒に遊ぼうとする姿もみられる。

■学習のねらい

休み時間に自分から興味のある本を選んで見る。

■使用した道具・機材

- ・わいわい文庫のタブレット端末
- ・集団の授業で大きな画面（TV）に接続できるとよりよい。

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

- ・初めは集団でも見るようにしたが、画面が小さいので、個人で休み時間などに使用するようにした。
- ・興味のある本を選んで、自由に見ていた。いろいろな種類があるので、飽きずに集中して見ていた。
- ・時間を決めて見るようにしたことで、めりはりをつけて使用することができた。ゆっくり読んでくれる本では、そのあとに自分で復唱して読むことができていた。

■本に対する情報提供など

【本の画面】



【本の情報】

- ・文章が進むと画面が見えなくなってしまうので、常に絵が画面いっぱいに出される工夫があると嬉しい。
- ・目次に本の表紙の絵があるとわかりやすい。
- ・読むスピードが変化したり、日本語と英語バージョンがあるものがよかった。
- ・例えば「アンパンマン」シリーズなど、子どもたちに親しみのある本が入っていると、より活用できる。

活用事例②-2

東京都立青山特別支援学校
伊藤 薫

■活動した学部・学年：中学部2年

■主障害名：ダウン症

■アセスメント名・結果：

太田Stage II - 1

■指導教科：国語・数学

■学習形態：個別学習

■本の名前：

『へんしんオバケ』

■対象となる子どもたちの実態

- ・対象とした生徒は絵と言葉のマッチングや数唱ができ、日ごろから絵本に興味を示す生徒である。
- ・特に物の名称や色、英語などに興味や関心があり、さまざまなジャンルの絵本を教員に読んでほしいと要求することが多い生徒である。
- ・物語の展開を理解することは困難であるが、擬態語などリズムカルな音を好む。

■学習のねらい

絵本を見て鮮やかな色彩を楽しむとともに、教員とタブレットから聞こえる声に親しみ、楽しみを共有して学習にのぞむことや、自らタブレットを操作して、次ページの場면을期待して取り組むことができるようになることをねらいとした。

■使用した機材

- ・タブレット端末

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

- ・初めは教員が操作し、スピードなどを調節して読み聞かせを行った。生徒はまず、絵に興味を示して画面に見入る様子が見られた。繰り返し読み聞かせをすることにより、見通しがもてた様子で、タブレットを指さして催促することが増えてきた。また、ボタンを操作して言葉が出てくると声を出して真似をしようとする様子が見られた。

- ・学級内の他の生徒も教員が誘うと興味を示し、二人で画面に見入って笑いながら鑑賞する様子も見られた。
- ・タブレットを利用した学習は家庭でも慣れているが、絵本は新鮮味があったようで「使いたい」と本体を持って教員に催促する様子が増えた。

■本に対する情報提供など

【本の画面】



- ・さらにジャンルが増えて、簡単な操作で本人が安全に使用できると良い。『へんしんオバケ』は楽しめる題材であった。
- ・色鮮やかでとても見やすい。文字も黄色の網掛けが出てから音声が出てくるので、期待する間があり、興味をもてた様子であった。